

『嫩桂山久昌寺』

尾張国丹羽郡稲木荘柳橋郷小折村

当初 慈雲山龍徳寺 曹洞派 実峯良秀和尚の修業寺

龍徳寺の僧徒は亡くなり、曹洞宗は断絶

生駒加賀守豊政他関山派の僧が臨済宗妙心寺派の僧侶を招いて龍徳寺に住ませた

織田信長が生駒家の娘をめとり、二男一女をもうけた（信忠、信雄、徳姫）

信長の妻（吉乃）が亡くなり、小折村の西、新野の地、経塚（田代墓地）で荼毘に付し、「久菴桂昌大禅定尼」と号し、龍徳寺で追善供養を行った

嫩桂 --- 二株の桂 久昌 ---- 久しく栄える

永禄9年（1566）

二株の若い桂が久しく昌（栄）えると言う意味にならい「嫩桂山久昌寺」と改めた。

天正年中、関山派が沈楽し、宗家の子「八右衛門尉家長」は、中島郡清洲城下の含笑寺の海巖和尚を招いて久昌寺に住ませた。

海巖は佐々内蔵助成政（陸奥守）の甥で、師である含笑寺の雄山和尚を久昌寺中興の開山とし、海巖は第二世となった。この時に曹洞宗となった。

その後度重なる争いで住職は転々と変わり、ばらばらに分裂崩壊し位牌は削り取られ、石碑は打ち捨てられた。生駒氏累代の命日、過去帳は滅して知るものはいない。

久昌寺の末寺は、或るものは、他宗派に変わり、寺名も変えているが、現在残っているのは、常観寺、般若寺、道音寺、稲源庵で、久昌寺縁起に記載の瑞龍寺、了桂院、常昌寺は不明である。



桂の木

